

平成 27 年度 工系若手奨励賞 受賞者

〔研究者〕	
	氏名 立花 美緒 (タチバナ ミオ) 所属 教育施設環境研究センター 職名 助教
〔タイトル〕	
諸外国の学校建築における核となる共用空間の構成	
〔研究の概要〕	
欧米諸国を中心とした諸外国において、学校の核となる大きな共用空間を持つ学校がみられる。こうした核となる共用空間は、異学年の生徒同士や生徒と教師の日常的な交流の場、プロジェクト形式の授業のグループミーティングの場、演劇やダンスの発表等の場等として、各学校の中心的な役割を担っており、新しい教育の要請で生じた現代的な教育空間の一つの形式と見做すことができる。本研究は、諸外国の学校の核となる共用空間を分析することで、その実態と意義を明らかにするものである。	 写真：学校の核となる共用空間
〔オリジナリティ〕	
近年、教育分野では、1997 年～2003 年に OECD が組織した DeSeCo の研究により、個人の人生にわたる根源的な学習の力であるキー・コンピテンシーとして「自律的に活動する力」「道具を相互作用的に用いる力」「異質な集団で交流する力」が示された。学校の核となる共用空間は、キー・コンピテンシーを養う教育プログラムを支える場として、今後重要となると考えられる。このような教育の国際的動向を背景とし、これまで建築分野では体系的に位置付けられてこなかった空間に着目した点に、本研究の特色がある。	
〔期待される成果〕	
生徒が自ら学び、活動するための空間の計画の必要性和具体的な空間像が明らかになり、特にこれまで教師が教える教育が中心となってきた中等教育の施設計画において新たな形を示すものとなると考えられる。また、近年日本国内において文部科学省を中心に小中連携、一貫教育が推進されているが、学校の核となる共用空間は小中一貫校において重要な交流や教育を支える空間であり、本研究成果は今後拡大が予想される小中一貫校の教育空間の指針になり得る。	